

# 伊豆特産海藻の増養殖研究

(予算区分 研究費 研究期間 2020～2022 年度)

担当：水産・海洋技術研究所 伊豆分場 橋詰悠斗

## 【研究の背景とねらい】

- ・ 近年、全国的に海藻の生育不良が問題となっています。伊豆沿岸に着生するヒジキでは、生育不良漁場が出現しており、本県の特産物であるテングサも 2017 年の黒潮大蛇行発生以後、伊豆西岸で生育不良となっています。
- ・ ヒジキ、テングサともに伊豆地域では採取する漁業者数が多く、重要な磯根資源です。また、価格高騰も相まって生産安定・拡大が求められています。
- ・ カジメなどの海藻も着生状況は変化しており、磯根漁業への影響が懸念されます。
- ・ 本研究では、現在の伊豆半島の海藻着生状況を把握することで、今後の海藻資源および採海藻漁業の動向を探る材料とします。また、ヒジキ、テングサについては生産の安定・拡大を目標として増養殖技術を開発します。

## 【これまでに得られた成果】

- ・ 熱海から土肥までの 16 地区にて、潜水漁業者等から海藻の着生状況を聞き取り、伊豆東岸ではテングサが増加した漁場もあることが分かりました (図 1)。
- ・ ヒジキの増殖適地の選定のため、漁場で生育状況を調査した結果、12 月以降、10cm 程度で生長が停滞した漁場がある一方で、40cm 以上に生長する漁場も確認され、増殖が有効な漁場が明らかになりました (図 2)。
- ・ ヒジキの種苗生産では、夏季にヒジキの生育を阻害する雑海藻の繁茂が課題でしたが、光量、注水量の調整により抑制可能となりました。
- ・ 生育不良漁場で採取したテングサを栄養塩を添加した培地で培養した結果、成長速度が増加し、栄養塩不足が生育不良原因の一つであることが明らかになりました。
- ・ 移植を目的としたテングサ種苗の生産では、約 4 か月の培養で 2cm 前後の種苗の生産に成功しました。その後、天然海域でも良好に生育することが明らかになりました。

	テングサ	ヒジキ	カジメ	ワカメ	モクズ
熱海	→	←	←	←	←
伊豆	→	←	←	←	←
東伊豆	→	←	←	←	←
河津	→	←	←	→	→
下田	→	←	←	←	←
南伊豆	→	←	←	←	←
西伊豆	←	←	←	←	←
土肥	←	←	←	←	←

→ 増加    → 変化なし    ← 減少

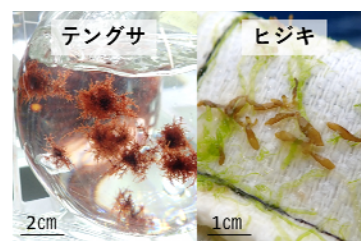
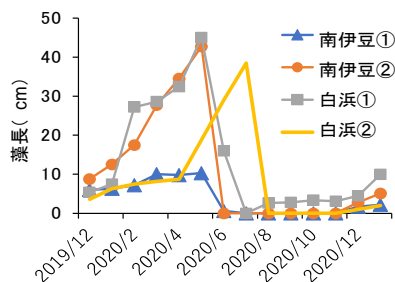


図 1 着生状況まとめ

図 2 ヒジキ測定結果

図 3 生産した種苗

## 【期待される効果】

- ・ 増殖および養殖の技術が確立され、また各地区の海藻の着生状況が整理されることで、漁業者は各地区の状況に合わせた増養殖手法の選択が可能となり、採海藻漁業の生産の安定・拡大が期待されます。

## 【今後の計画】

- ・ ヒジキの生育状況の良かった漁場周辺において、着生範囲の拡大を目的とした播種を行うとともに、種苗生産の条件を検討します。
- ・ 生産したテングサ種苗の移植試験を継続するとともに、施肥による生育促進の効果を検討します。

(作成 2021 年 4 月)